

平成26年度 第3回 プロジェクトチーム・スリープレイ

議 事 録

日時/会場：平成26年6月24日（火）14:00～17:00 / 役場臨時庁舎3階会議室

出席委員：谷順二、小島幹生、山田由理子、堀井美也子、穴原奈都、菊地健一郎

菊池和式、浅沼浩希、菊地直彦、沖山勝彦

欠席委員：壬生貴則、平野光男、平松勝憲、関健太郎

三宅村：北川係長、鈴木、杉本（記録）

1. 会議の資料確認

- 当日資料：①三宅島島コンツアー2014 募集概要（案）
②三宅島島コンツアー2014 収支予算書（案）
③三宅島島コンツアー2014 スケジュール表
④企画書案 三宅島インターン制度
⑤漁業就業者支援策について

2. 三宅島島コンツアー2014 実行委員からの報告

谷会長：今日は島コンツアーについて実行委員会からの報告と、短期滞在型施設について前回話した島外から人を呼んで一時滞在をしながら住宅を探す事について、それから仕事について、最後にその他の所でタブレットについて話しをしていきたいと思う。まず、島コンツアーについて実行委員から。

穴原委員：概要から説明する。日程については候補を2つ挙げている。一つは9月13日から15日までの3連休。もう一つは9月19日（金）から21日まで。二つ目については18日（木）に男性が東京へ出発しなければならなくなる。

谷会長：日程をここで決めてはどうか。この日程で、役場関係、観光協会関係で他にイベント等はあるか。

事務局：なし。

穴原委員：島市が21日に予定されている。

谷会長：実行委員としてはどちらがいいのか。メリット、デメリットはあるか。

穴原委員：男性が迎えに行く事を考えると木曜から休まなくてはならなくなるのか、金曜だけ休めばいいのか違って来る。また、予算を2案考えているが、土曜に飛行機で行けば夜の食事に間に合う。9月は台風があるのでそこも考えなくてはならない。

谷会長：後半になるほど台風の可能性は高くなる。19日の開催だと私が参加できない。

菊池委員：13日を本番にして19日を代替日としてはか。仮に19日を本番とすると代替日は10月となるのか。

穴原委員：13日を本番として、延期となっても19日は宿の問題等もあるので代替日はどちらとしても10月となる。

山田委員：参加者が休みを取っていると1週間後にずらすのは難しいと思う。

菊池委員：それなら、会長の予定もあるので13日の方がいいのではないかと。

穴原委員：女性も13日からの方が3連休で参加しやすいと思う。ただ、男性参加者で3連休に観光業に携わっている人は忙しいかもしれないが。

谷会長：他になければ13日に決定でいいか。

全委員：了承

谷会長：では13日に決定とする。

穴原委員：次に参加費について、女性の出会いたいコースが15,000円、暮らしたいコースを20,000円。予算書案と見てもらいたいが、男性が船で行き1泊する場合と泊まらずに飛行機で行く2パターンで示している。船で行く場合、男性の参加費15,000円、東京には行かず島内のみ参加は10,000円。「島ぶら女性」が出会いたいコース、「島ライフ女性」が暮らしたいコースの女性として明記。事務費は全体の残額。委託費は観光協会、商工会青年部、ビオで計上し、渡航費はこの時期だと団体割引が10%。他、宿泊費、食事代、バス借上げ費となっている。

谷会長：予算は間に合うか。

浅沼委員：体験コースの予算がざっくりしていて、これから内容を詰めないと、どのような体験をさせるか…不確定要素がかなり多いので一応この予算で間に合っている。

穴原委員：多少多く見積ってはいる。

谷会長：参加費はこれでいいのではないかと。他に高い、安いと思う所はあるか。他については実行委員会で話しを詰めてきてもらっているから。

菊地直委員：最初から飛行機1本で話しを進めていいのではないかと。

小島委員：最初はそう思っていたが飛行機が欠航した場合、船で行っても間に合わなくなってしまうので、船と飛行機の2つを考えた。

穴原委員：前日に船で行けば、必ず行ける。

小島委員：選ばせるわけではないが・・・

菊地直委員：今の飛行機の就航率を考えればガスが出ない限りは今の所飛んでいるから。

穴原委員：飛行機にした場合の方が宿泊費を除いても予算は高くついてしまう。

菊地直委員：飛行機で行く場合の方で事務費が多く残るのはなぜか。

穴原委員：飛行機の場合、男性の参加費を20,000円としている。

菊地直委員：それであれば船で決まりではないかと。

浅沼委員：台風シーズンだから微妙だが安いほうで確実な方がいい。

穴原委員：では船で行く予定とする。

小島委員：船が欠航で飛行機になった場合その時追加料金をもらう。それはあり得ない。

穴原委員：それは募集する段階で決めなければいけない。

菊地直委員：そうすると前回のようにはりで行くのは無くなるという事になる。それであればもう少し見直して飛行機プランで15,000円で行けるようにすればいいので

は。基本は船で行くが土曜日に飛行機でも行けるように考えて予算を取っておけばいい。それで事務費を調整するようにすればいい。欠航した場合でも予算がマイナスにならないように。

浅沼委員：スタッフが賃金をもらわない覚悟をしておいてもらえればいい。あとはやりくりしかないのではないかな。あとは参加者の色々な条件で、飛行機で行きたいという人がいたら船の分しか出せないのでも自費で行ってもらえばいい。

菊地直委員：台風が直撃したら帰って来られない事も考えられる。

穴原委員：そうしたら日程を変えるしかない。

小島委員：日程だけでなく内容も変えなければならない。

浅沼委員：色々なパターンがある。早目に中止決定をしてお金を返した方がいい。もしくは再度やるという告知を事前にうっていきようにし、一度お金を預かってしまったものは謝って日付を変えるという案内をして対応するしかないと思う。台風のリスクがある以上、募集の文言の中に組み込まないと危ない。中止の場合の対応を決めておかなければ。代替日を設けて再度告知する旨を伝え、それで日程が合わなければ返金対応をするなどの流れだけは決めておかないと。その判断をするのを早目にするように、もし来たとしても中止にしたりするなど判断を早目、早目にすれば予算を動かさずになんとかなるのでは。その対応だけ募集時から告知しておけば延期になった時に参加者が減ったとしても実行はできる。中途半端に行って片側で足止めになるよりは中止決定を早目に決め、もし台風が接近していた時点で中止にするなど先に決めておけば、事前告知をして中止、延期を発表してあとで対応するという形を取った方がいいのでは。3日後の天候は分かるから。台風の場合は発生して何日に来るかという事は想定できるから、その時点で延期する旨を伝え、日付変更して都合が悪ければキャンセルして貰えばいい。減った分は再度募集を掛けるなりすればいい。

穴原委員：去年の新島がそうだった。

浅沼委員：それと同じ事をやってあげればいい。

穴原委員：新島は女性の参加者が当初20人くらいだったが、延期して7人くらいに減り、男性参加者は変わらなかったとの事。

山田委員：10月に代替日は設けられるか。

小島委員：10月は無理ではないか。運動会、文化祭、音楽発表会がある。

谷会長：そこを考えると出来なくなってしまうので、それはしょうがない。

浅沼委員：2か月ずらすでもいいから、取り敢えず代替をうつような・・・

穴原委員：バイクレースが11月15日、産業祭が22日に入っている。

菊地直委員：11月1日から3日はどうか。

穴原委員：文化祭が入っているが。

小島委員：そこはあまり関係ないのではないかな。

浅沼委員：代替日をその辺りに設定するしかないのではないかな。

谷会長：代替日はここで議論しなくてもいい。

穴原委員：次に募集・受付業務だが、女性は前回同様ビオを中心に協会がフォローする形で進めていきたい。ホームページから受け付けて入金確認を電話やメールで対応していく。男性は商工会青年部に募集から参加費の徴収、管理までを行ってもらおう。参加者を早目に確定させたいので募集案内も早目にしていきたい。事前の企画だが女性には女子会という形でビオに都内で開催してもらおう。出会いたいコースと暮らしたいコースを別立てで1～2回開催。男性の方は前回の反省も踏まえ、基本的な接し方など講師を呼んでやった方がいいのではないかと話もあつた。8月末位までに参加者を締め切り、9月の前半頃にレクチャー等をした方がいいのではないかと考えている。

小島委員：予算がないという話しではなかったか。

穴原委員：それはビオの予算の所に入れれば良いと考えている。

谷会長：女子は出来ると思うが、男子をどうするか。

穴原委員：男性側の講師もビオで手配してもらい、予算はまた考えなければいけないと思うが。

小島委員：それは当たり前で、予算がないという話しではなかったか。

谷会長：講師を付けて人は集まるか。わざわざ講師を呼ぶよりもう少し簡単でいいのでは。

小島委員：前回、女性に言われた事を紙で配り、事前の説明会の時にデートプランを考えてもらうよう伝えておけば十分な気もするが。

谷会長：どのレベルまでやるかだが、小島委員が言ったように前回出た意見を見せたり、前回帯同してくれたビオの意見を入れたものを配ればいいのではないか。そうしないと逆に構えてしまうのではないか。

浅沼委員：前回も2～3組出来ているからあまり気にしなくてもいいのではないか。

小島委員：奥手な人のためにあってもいいとは思ったが。

谷会長：参加者に配るパンフレットの中に前回の反省点とビオと穴原委員の思う所を入れるという事でいいのではないか。

小島委員：あと、デートプランを作ってきてもらうよう伝えなければいけない。バーベキューの時にそのプランを発表して会話が弾むかもしれないという事も伝えておく。

谷会長：参加が決まった時点で大方の案は募集時に出すが、参加が決まった段階で前回うまくいった成功例などの資料も入れて配布する。

浅沼委員：事前説明会を開催し全行程を男性側が知ってもらうようにすればいい。デートプランを発表するのに事前にしっかり考えておいてもらうよう伝える。スケジュールと流れが分かれば動きやすくなる。資料等を入れなくても事前に全行程を説明すればいいのでは。前は流れが分かっていたから頑張り所やポイントも分からなかった。

谷会長：では男性は事前説明会を開催するという事で予算計上は0円とする。

穴原委員：次にスケジュールについて、今WEBとチラシを作成中で、概要が今日で決まればどんどん進めてもらい、写真等を検討している段階。商工会にも募集の準備を進めてもらっていて7月中旬頃から募集を開始したいと考えている。募集期間は1カ月半位で8月いっぱい、若しくは集まりが悪ければもう少し延ばそうと思って

いる。できれば8月中に参加者が確定するよう進め、8月後半から9月初めにかけて女子会や男性の事前説明会を開催したい。次に当日スケジュールだが、出会いたいコースはほぼ前回と同じような流れ。ただ、1対1で話す時間を今回は設け、男性はデートプランを発表するPRタイムを設ける。前は全体で観光する時間を設けたが翌日のフリータイムにとっておき、1日目の午前中は自己紹介とアイスブレイク、グループ分けに時間を使い、午後はグループ毎にバーベキューに使う食材を島の中から集めてくるプログラムにしたい。バーベキューには肉と飲み物以外を集めてきてもらう。暮らしたいコースは職場や住む所、求人情報など、あとは島民と密なコミュニケーションがとれる所を一つの売りにしたい。そして大まかにコース分けをし、職場見学やリアルな島暮らしを見せるため島民との交流を入れ、その中に農業や漁業体験ができればいいと考えている。この時期にできる体験をもう少し具体的にしていきたい。夕食のバーベキューは島民と交流しながらという事で出会いたいコースとは別の場所で行う。最初は全員で合流する案もあったが暮らしたいコースの人達は出会いたいコースの人達と接点がなくともいいのではという事で別にした。会場も別。スタッフの方が大変にはなるが…。

浅沼委員：実行委員会の中で私が言いたかった事はもっと細分化して3~4名ずつ島民をべったり付け、今後本当に暮らしたいと思った時に後継人になるようなきっかけを与えたかった。この島に入って来ようと思うなら誰か知り合いがいなくては絶対に入りづらいだろうから、公的な募集で入ってくるのではない人達の窓口をこのツアー中で展開してあげるといいと思う。2日目はフリーでいいが集団で行動するのはそぐわない気もするから。

菊地健委員：体験コースだけにして、島の人と出会う体験にしてはどうか。

谷会長：今回はこの2コースでやってみる。やればまた色々と見えてくる。

菊池委員：途中のコース変更の希望が出た場合はどうするか。

浅沼委員：それは認めない事とする。

谷会長：3日目15時まではこのスケジュールで。その後のバーベキューを一緒にやるか、やらないかだが。

穴原委員：接点を持たせないのであれば場所も分ける。もしくは少し場所を離しても交流しようと思えばできる程度に机を離して行うか。

菊池委員：コース分けしているから別にしなければいけないのではないか。

谷会長：とった食材がチーム毎にあり、もうひとつは買ったものがある。それをあげるのは自由にした方がいい。テーブルは分けるが、お互いの出入りは自由にする。

浅沼委員：一つの会場でいいのではないか。

谷会長：場所は錆が浜の休憩所がいいのか。味覚館でこの人数でできるのか。味覚館の場合、片方は食材を用意してもらうが、もう一つは場所だけ借りる事もできるのか。

穴原委員：それは相談次第だと思う。

谷会長：人がたくさんいるのであれば錆が浜の休憩所でもいいのか。

小島委員：全員同じ場所でやるのであれば錆が浜の方がいいと思う。

谷会長 : 一つは屋根付きの所で、もう一つはテントで。席を分けるという事でいいか。食材も島ブラの人達は島の男性陣と取ったものを食べ、体験の人は島民交流で別の食材と別の飲み物を用意するという事で、場所の隔たりはないという事でいいか。

小島委員 : 飲み物は一緒でいい。

谷会長 : 島民交流の人がバーベキューで男性と仲良くなって、翌日のオプションメニューに行かずフリータイムに行くのはダメという事でいいか。

穴原委員 : どちらのコースも2日目はフリーにしているが、出会いたいコースのフリータイムは参加男性のエスコートで基本行くことを前提としており、暮らしたいコースは職種に限らず島の人達と仲良くなって、職場を見に行くなり、行きたい所へ言ってもらおう。ただそういう行きたい所がなければオプションの中から選べるように火山体験や森を歩いたり、シュノーケリングをしたり・・・

谷会長 : 男性募集はあくまで島ブラの女性達の希望する婚活に出る男性グループの募集と、あとはバーベキューの焼きを手伝うスタッフの募集もした方がいいのでは。

小島委員 : この前話しをしたがそれはここの委員でいいのではないか。そうすればこの中にいる委員は内容を分かっているから積極的に話しかけていける。

菊地直委員 : 出会いたいコースは食材を自分達でとってくるが暮らしたいコースの人達も島のものを食べたいと思う。それは用意してあげるのか、それとも…。

穴原委員 : 日中に行う体験のメニューにもよるが、畑などを組み込むのであれば畑の手伝いをして収穫物をもたらしてくれるような段取りを組むとか…。

沖山委員 : それは難しい。雨が降ってしまうと成立しなくなってしまう。

小島委員 : 体験コースをよく考えないと。9月初旬に何がとれるか。

谷会長 : 女性陣が島に来て知りたいのは、島に嫁に来たらという事と独立して結婚しないでも島で暮らせるのかが見たいのか。その目的にもよると思うが。

山田委員 : 出会いよりも島での生活を体験したいと思う。明日葉を取ったり、島あさりを取ったり、食は二の次ではないか。まずは島で暮らしたいというのが…。

浅沼委員 : どんな女性が来るかというのが重要で…。

谷会長 : では暮らしたいコースは私が連れていく。時期的には明日葉や貝を取ったりしかできないが。家庭菜園で取れるものはないか。大根やじゃがいもなどは…。

菊地直委員 : ジャガイモは無いと思う。サトイモはもしかしたら出るかもしれないがほとんどないのでは。基本は夏野菜で…。パッションはぎりぎり残っているか…。

谷会長 : 島の人達は苗場を作ってやるので、そこを誰かに声を掛けて手伝わせてもらえれば。

菊地直委員 : 野菜は何とかなると思う。

穴原委員 : 職場体験としてではなく農家や漁師ではない人達が行っているような収穫体験をしたいと思っていると思う。職業としてではなく生活として。

谷会長 : 魚を捌くだけでもいいのではないか。あまり移動してとなると…バスはあるのか。

穴原委員 : 暮らしたいコースには一日充てている。

谷会長 : まだ時間があるので色々な意見を聞いて練り直してもいい。

穴原委員 : あとは暮らしたいコースだが、医療や福祉関係など職業としての情報も参加者が

決まれば事前に興味があるものを吸い上げる事ができる。

谷会長 : 行政的なものについての情報は集められるか。

事務局 : その時期の採用情報は分かる。

谷会長 : 役場からの情報はある程度提供できる。あとは成功事例として何か提示してあげられればいいのでは。島の男性と結婚して自分で商売を始めた人もいるという事例を。仕事についてはそういうレベルでいいのでは。それ以上は斡旋する組織ではないのでしない方がいい。島嫁トークもあるし。

穴原委員 : 午前中は小型バスを用意しているので、参加者の要望に応じて病院や保育園、あじさいなどを周るようにしたい。その後、島嫁とランチをして午後は暮らしの中の磯採取や畑などをうまく取り入れて食材としてバーベキューに使えればいい。

菊地直委員 : 出会いたいコースの食材調達の中で、船で釣りに行くのをありとするのか。もしくは事故防止等は参加者の責任でやらせるのか。

小島委員 : そこまではやらせなければいいのではないか。

沖山委員 : どんなコンディションでもできるものから選ばせればいいのではないか。最初に候補を出しておいた方がいい。

菊地直委員 : 私だったら船で連れていってしまう。ただそういうのは怖いので…。

谷会長 : それは事前説明会できちんと説明すればいい。食材集めについては自然のものを取りに行くだけではなくて買いに行ってもいい。

穴原委員 : それで商店を見に行ったり、知り合いの畑にとっておいて貰うのもいい。

小島委員 : 最初から2人きりになるようなイメージか。

穴原委員 : ここはグループ行動。前回、クリスマスツリーを作る人と材料を素材を調達しにいく人と分かれるような。ただ、バーベキューの準備はまだしなくていいので。

小島委員 : グループでゲームでもして盛り上がりながら肉などを配ったりすればいいのでは。

谷会長 : チームで勝ったら何かをもらえる。例えば米1合とか。

穴原委員 : ずっと食材集めではなく、そういう時間もコミュニケーションを取れる。

小島委員 : やってはいけない事だけ書いておけばいいのではないか。

谷会長 : 明らかに危険な事だけは。

菊地直委員 : 釣りに行くならこの栈橋でと決めればいい。

谷会長 : それは男性陣には事前に告知できる。

穴原委員 : ある程度の食材は用意して時間を決めてゲームの景品にしていく。

小島委員 : あとは時間の割り振りを。

菊地直委員 : 味覚館でやっているように肉とお酒は事前に用意し、野菜や魚を持ち込むのか。

谷会長 : 前回と同様にゲーム制にし、米と酒を用意する事はできる。ただ肉をどうするか。

穴原委員 : いい肉から順番に…時間を指定して争奪ゲームをやりと指示するのでチーム内で誰が行くかなど相談してもらえば。全員でなくても参加できるゲームを考える。

小島委員 : 9月に何がとれるかが一番のネック。雨で時化の時はどうするか。外に出られないという状況になったら。少し大変だが宝地図の様なものを用意して早いもの勝ちで取らせるか。

谷会長 : 9月の時期を考えるとチーム対抗はあった方がいいかもしれない。

菊地直委員 : 説明会で、男性に風の時はある程度とってきてもらうようにし、事前に天候は分かるから発注かける時点でうまく調整すれば。肉はこちらで用意する予算取り。

谷会長 : 15時30分の時点で粗方食材は揃う分けだから足りなかったらスタッフが買いに行くしかない。あくまでも用意するのは配給分。

菊地健委員 : 来てくれた人達にいいイメージで帰ってもらいたいから、食材はある程度用意しておかないといけない。

谷会長 : 出会いたいコースで来た人が島で暮らしたいと思うかもしれない。企画についてはこのような内容で、あとは実行委員で詳細を詰めてもらいたい。

穴原委員 : 募集する女性のターゲットを明確にしていた方が募集もしやすいという事だが。

小島委員 : それは島に住みたい人募集ではないか。

谷会長 : 島というと限定されてくる。田舎に暮らしたい人でいいのでは。

菊池委員 : 年齢はどうなのか。

穴原委員 : 年齢制限は女性が40代まで、男性は25歳以上として上限は特に設けていない。

浅沼委員 : 多い方が盛り上がるから上限を取ってしまってもいいのではないか。

谷会長 : 老後を島で住みたいという人が来てもいいのか。

小島委員 : いいと思う。

谷会長 : やって見なければ分からないが、そういう人達が多ければそれはそれで今後事業として取り組んでいかなければならないから、そういう人達も取り入れられればいいかもしれない。

穴原委員 : では男女とも20歳以上で上限は設けないという事でいいか。

小島委員 : 25歳以上ではなくていいのか。

穴原委員 : 20歳位でも島で暮らしたいと思う人もいるだろうから。

小島委員 : 暮らしたい人はいるだろうが、結婚となると本気で考えているかとなるから25歳以上となっていたのではないか。

浅沼委員 : ただ20歳代というのはあまりいないので、両方20歳以上でもいいと思う。

谷会長 : あとは実行委員会です。

穴原委員 : ではこのような内容でビオとも決めていきたいと思う。

谷会長 : 募集をどんどん決めていった方がいい。婚活についてはこのような形でいってあとは実行委員の方で詳細を詰めてもらいたい。

穴原委員 : では20歳以上で上限を設けない形で募集をする。暮らしたいコースは未婚、既婚を問わない形でいいか。

小島委員 : 特別明記しなくていいのでは。問い合わせがあってから対応すればいい。

穴原委員 : 宿泊先は夕景と海楽で予定しているが構わないか。出会いたいコースと暮らしたいコースで宿を分けた方がいいと考えているが。

沖山委員 : 問題ない。

穴原委員 : バーベキューに関しては錆が浜のキャンプ場でどちらのコースも行うこととする。準備等については参加者とスリープレイのスタッフで行う。

谷会長：では一旦休憩とする。

～ 休憩 ～

3. 三宅島インターン制度について

谷会長：短期滞在型施設及び就労体験先提供ということで、三宅島インターン制度の企画書について事務局から説明を。

鈴木：前回の会議であがった短期滞在型施設について、人口増加につなげることを目的に島外から人を呼び込む施設を作り、人の流れを作るというたたき台を作成した。(配布資料④説明) スキームの2のところを中心に考えていきたい。

北川：前回会議で月ごとにどんな仕事があるかということで、三宅島業種別年間スケジュール(案)を作成した(資料参照)。誤りがあれば訂正願います。

菊地委員：パッションフルーツはほぼハウスでやっているので作付けが11月、早いところだと5月頃から収穫。一番の繁忙期はパッションが6月下旬から8月に収穫、5月、6月が受粉のピーク、9月頭で打ち切り。路地産は10月までであるかないか。ドラセナも早ければ7月、8月頃から収穫が始まりクリスマスまで。寒さによっては1月2月まで。

北川：表は収穫など一番人手が欲しい時期(黄色塗りの部分)を想像して作成した。前回の会議で仕事をつないで食いつなぐという話があったので。土木関係は単純に2～3月は公共事業が集中し、夏は道路周りの草刈も多いので人手がいるかと。観光に関して、釣りは暑いので夏場があまりやらないのではということ冬場、逆にダイビングは夏がピーク。バードウォッチングは鳥が多い5～6月。漁業関係は春先にトローリングで初ガツオ漁獲、トビウオは春トビ、イセエビはお正月とか値段が高くなる頃、天草は干すのに労力があるので夏場。これをそのまま組み合わせたいけるかは分からないが参考までに。

谷会長：観光産業課は本日参加できないとのこと。漁業については村の予算で先立ってやっている。漁業就業者支援策は三宅島で漁業をやりたい人を三宅に呼び、生活して漁業で食べていってもらう事業。漁業に固執しており農業もやろうという話があって進めていたようだが、農業だけで食べていくのは成り立たないということで制度としては現状難しい。漁業は大丈夫なのかといっても不透明なところはある。どの業種も時期的なものはあるが時期ではなく金になるものを抑えないと。生計をたてられる業種・仕事の話になると思うが、あくまで食べられたと仮定して漁業就業者支援策について(配布資料⑤説明)。これまで3回行い約25人参加、長期研修の希望は5人?くらい。体験段階で自分には無理だとか食っていけないとか、こちらが希望しても蹴ってくる人もいて、中には三宅以外の条件の良いところに行く人も。長期研修の希望がきた場合はその人を同乗させる船長がいれば基本的に1年間、本人の希望で2～3年延長。この間、村から10万5千円の給料が支払われ住宅も漁協が提供。長期研修は現在1名、1ヶ月で断念した人が1名、定置網船に乗っている人が1名。現在長期研修に入っている人は来年11月に独立するか1年延長するか、

他に行くかはその人次第。他の船が給料を払って乗せるという方法もある。漁業農業は国の方から面倒もみてもらっているので中古船の購入などでは利子補給やまとまった額を借りられる制度もある。短期滞在型施設とはだいぶマッチングがあると思う。1度短期で見て、それをふれあい交流事業にあてるというのも方法。食べていける・いけないというところを正直にみせない。

菊地委員：それは島内在住者でも可能か。

谷会長：島内は不可。要綱には完全な素人を集めるとある。手伝い程度だったらいいが元漁師とかは補助制度（村の単費）で認めていない。

沖山委員：民宿とかでもあてはまりそう。技術習得支援金がいない。

浅沼委員：実際受け入れるところが有償で研修をするのか無償ですか。

沖山委員：民宿には置き換えられる。任せてしまう。

小島委員：村の事業で年間通してやれば。今月はこれをやれます、みたいな。

浅沼委員：人手がないときは助かる。村が給料を出さなくても声がかかるタイミングはある。繁忙期で人手が欲しいからバイト代だすので来てと。

小島委員：人口を増やしたいということなので漁業に特化しないで役場の事業でやれば。

沖山委員：手伝いとか結構そういうパターンはある。オーナーが高齢化して手伝いの人は他を借りて独立してやるとか…いなみ壮とか。釣りが好きで移り住んできて結婚して…新鼻壮とか。

浅沼委員：住宅を与えるだけというのが最初の想定だが、教えて給料まで出してだと生活保護みたいで意味あいとしては違うかと。仕事も短期だけどバイトがあり、住むところも確保できているぐらいでいいのでは。そんなにカリキュラム化して経験させるシステムかという気はする。住むところがないのでバイト探しも難しい、仕事はだせるけど住宅はだせないという両側の問題。短期滞在できる居住施設だけでも価値はある。仕事を教え込んで給与を保障してまでのシステムを組む必要はあるのか。住むところさえあればなんとかなるのでは。つなぐのは自分次第。この流れがあれば募集もおそらく出てくる。

小島委員：募集は出さないかもしれないが、例えば役場がアシタバの繁忙期に人がきたらいくら払えるかを聞きに行き、この時はこれができますよと。

浅沼委員：マンパワーがそこにあれば需要はでるのでは、というのが当初の想定かと。

谷会長：業務に支障がない程度で住宅事情について堀井委員に聞きたい。公共施設や空き家は我々の力では簡単に探してあてがうのは難しい。それを探すのは個人という部分もあり、腰掛け程度に短期で住める一時滞在的施設を作ればという話になった。

堀井委員：島で空き家を持っている人の感覚でいうと何年も住む人にしか貸さない、定期借家で貸すという概念がない。向こうでは建替えの間だけとか、本来なら何ヶ月だけ貸すということがもっとあっていいが周知が足りてない。物件自体は3件ほどある。どの物件も何年も貸すという普通の賃貸借契約と定期借家でもいいというどちらもできるようになれば。そういう短期のところにあてがうということ？

谷会長：プロの目線でそれは甘いとか事情を聞きたい。空き家はたくさんあるが貸してくれ

ないという話はよく聞くので。

堀井委員：空き家はあるし貸してもくれる。ただ、今まで貸していない家は貸せる状態になっていないのがほとんどで貸すにあたってリフォームすると100万、200万かかってしまうのがほとんどだが手をかけないでいきましょうと。全部管理をさせてもらえれば工事代も分割して大家さんに負担がないようにという提案はしている。その方が貸してもいいかなと思ってくれる方が今までよりは多いかと。

谷会長：それに対し需要はあるのか。例えば短期滞在型施設を作って島外の人が入り、半年たって出たいと。そういった場合に物件がすぐに見つかるものなのか。村営住宅は難しいので、そういう部分のバランスは。

堀井委員：借りたいという声は多く物件数の方が足りていない。

谷会長：それは島内の人？島外の人？

堀井委員：今は島内の人が多く、村営住宅の入居者からは今のところない。現在住んでいる部屋は退去後、人には貸せない状態だという人が多い。

谷会長：島外の人には貸したくないという大家もいるのか。

堀井委員：借り手がどこに住んでいてどこで働いているのかというのはどの大家でも聞くこと。そこは島外であろうがなかろうが上手く仲介するのが仕事。

谷会長：漁業研修の流れ、島の住宅事情はだいたい分かった。企画書案については箱物と仕事斡旋を同時進行しなければいけない。話だけ進めても箱がないと。仕事の斡旋するのが我々なのかというのも考えもの。

小島委員：補助金を使ってやるのかという問題も。そもそもスリープレイでやるのか。

谷会長：9月のふれあい交流事業も就労体験のような、漁業でいう短期研修のような位置付けになると思う。そうすると真っ先に短期滞在型の住宅確保になってくる。

沖山委員：住まいを具体的にしていくのが一番現実的。そこが決まらないと絵に描いた餅。

谷会長：大雑把なソフトも先に考えないとだがハードがないと何も進まない。どうしても既存の御蔵会館にイメージがいつてしまうが。民宿を借りるか新築するか。

鈴木：前回の話だと廃業している民宿などで全部自分がやるなら安く貸してくれるのではないかとことだったので、ざっと廃業している民宿のリストアップをした。

沖山委員：住家兼用になっていないところがよい。兼用だと見ず知らずの人と一緒に暮らすことになるのでそれは厳しい。

小島委員：使われていない民宿に滞在させてもらうという場合、金はどこにかかるのか。

鈴木：そういう場所を確保できたとして期間や応募資格などを決めていかないと。

浅沼委員：まず需要があるか。型はできても入ってくる人をどう目算するか。ターゲットは。

鈴木：資料作成時、定住を目的にいつ来てもアルバイトが出来る、紹介するというのはいいと思っただが、就職先が決まらなければ。あまり定住ということだけに目をおいても、ホームレスを呼んでもくるのでは。そうまでして人口を増やすべきなのか。だからあえて仕事の斡旋という言葉は使わなかった。情報の提供はするが、どういう人を募集するのかで違ってくる。

小島委員：それは募集の仕方次第でなんとかなると思うが、金がかかるのかかからないのか。

かかるならどこが出すのか。補助金なのかなしでもいけるのか。

沖山委員：飯場は格安で3ヶ月とかある。現実的にはそういうパターンになってくると思う。

谷会長：確かに仕事を斡旋する組織ではないので極端な話、最初のさわり部分はふれあい交流事業でもまかなえる。滞在型施設に入る前にそこを必ず通らないといけないという。

浅沼委員：体験ツアーを経たうえで施設を利用してもらってこの流れ。

谷会長：それは企画内容によって変えられるので意外とソフトの部分は皆で考えれば。施設は金もかかり相手もいるので難しい。ソフトを大雑把に考え、それに見合うような宿泊施設を考えるという順で。仕事は本人が探し、斡旋はしないがアドバイスはする。婚活と一緒にレクチャーまではしないが情報は提供する。

沖山委員：住まいはあるという情報があれば民間が努力して人を呼び込む。

谷会長：アルバイトしながらでも仕事は探せるだろう。

沖山委員：民宿でバイトをしながら釣りに乗ったりして漁業に興味がある場合もある。幅を持たせる。事業でやるところと民間が頑張るところ。住まいがないから呼べないというのは結構あると思う。関委員は住み込みありということで島に来た。

浅沼委員：重要なことは多岐に渡るのでどんな感じで持ち込んでいくか。施設の運用目的を多様に対応できるようにしないと。定住に向けた期間であると。ただの短期滞在ができる施設として民間が利用して飯場の代わりになるのは避けたい。その中に一工夫して永住なり就職に向けたアプローチを組み込みたい。

沖山委員：箱物ではなく、そこを詰めた方が。

浅沼委員：箱物をどういう理屈で建ててどんな目的で運用していくかを明確に固めれば、民間が利用したとしても体験から定住に向けた流れとか、最終的に永住や就職に向けた利用ならあり、というお題目をつけた施設であればいいのでは。飯場的利用でも落ち着く先が定住だったらいい。そこに持っていければ定住に向けた一つの流れなので。ただ民宿に泊まらせるより安いから、簡単だからという理由で入れるのは違う。定住に向けた落としどころの流れを固めないと。色んな経緯を経ても最終的には定住だったり、村営住宅に申し込むための一時滞在であったり、という流れがあってしかるべき。民業圧迫との兼ね合いもあるが、外からくる人間を定住化させるための中間施設であるという立ち位置をしっかりと。あんまり限定しすぎると利用しづらくなるので利用は多目的にできた方がいい。紆余曲折あっても体験～短期滞在～永住という流れであればOKというような施設にしないと。需要もそんなにあるかはまだ分からないので。

小島委員：今回の島コンの暮らしたいコースに何人くるかも参考になる。

浅沼委員：そういう人たちにアンケートをして、そういう施設があれば滞在するかという需要のチェックを事前にしてもいい。

谷会長：簡単に言うとふれあい交流事業の肉付けと後始末。ふれあい交流事業にきた人たちの中に三宅島で暮らしたいという人が思いのほかいたと。その人たちが就職したいといっても斡旋するところもない。ただ機会を与える。それに基づいて企画し、御

蔵会館なりにこういう施設はどうだと。最終的に村から予算をつけてもらうということになる。そのためにもふれあい交流事業をやって実績を積まなければならない。

浅沼委員：ただ、本当に短期だけを目的にされたら意味がない。定住に向けた短期滞在という本筋を踏まえないと税金は投入できない。

谷会長：島に来たい人たちの受け皿がいる。住宅は簡単には借りられる実情ではない。手取り早いのは一時滞在型施設。それを現実に作るにあたってフローとしてどう持っていけばいいか。

浅沼委員：課を横断したプロジェクトを組んでもらう必要がある。総務課だけでできる話ではなく産業とも絡んでくる。こういう流れで人口増の策を打ったと上手く進められればいいのでは。

谷会長：諮問と答申じゃないが、こういう施設が必要なのでご検討くださいと村長に提出するのか。どういう手法でそれに取り組んでいけばいいか。

小島委員：これ以上何かやるといったら国の補助金とか。

谷会長：逆に補助金を使わないで民間に募集してやらせるとか。不動産屋もあることだし。そういうのは逆にやってもらっては困るということになるかもしれないし。

浅沼委員：スリープレイとしては、こういうフローを作ると人口増につながるのではという案がかなり出来上がってきているので、これをどこに投げかけるか。実現はしたいがここでやる必要はないのでは。世の中の需要として、中間施設がもしあったなら人口増につながるのではというアイデアがでましたと。これを具現化して実行の段までもっていくことがこの仕事なのかということは多分にある。

菊池委員：要望書までに留めた方がいい。色々検討して最終的にスリープレイとして何が必要で今後何をすべきかを村に投げる。それを考えるのは村。案としては十分。

谷会長：ふれあい交流事業のようなのは他にないのか。例えば婚活は村の単費でやってふれあい事業はもっと就労体験とかしっかり組み込むとか。年に2回やるならば1回は婚活で1回は就労でとしっかりやれば体裁もいいし、どっちでも人口増につながる。

浅沼委員：いくら体験だなんだと言ったところで現実味がないという現状でこういう話ができてきているわけで、その流れの落としどころのフロー図を行政側である程度整えれば人口増につながるというのが施策。ただ体験ツアーをどんどん組んでも住宅事情のところにネックがでてきて、ではどうすればいいかというのが行政の仕事として波及してくる。いくらここで頑張っても受け皿や土台がないと。

谷会長：島コンの話で、暮らしたいコースの人は縁故がもてるようにという話をしたが、やはり一時滞在型施設はすごく三宅島にあっていると思う。三宅島で1つの職で生きていくには公務員になるかドカタになるか。個人事業者のうち専業でやっている人はかなり少なく、3つ4つ仕事をして生活ができる。そうなると一時滞在型施設で冬はこれ、夏はこれと働けば生きていける。本来なら仕事は一つに絞れたら理想だがそうでなくても食べていけるのが三宅。施設があれば色々な仕事も見られる。

浅沼委員：兼業での生計の立て方は主流になっていくのでは。

小島委員：あれこれやっているうちに自分で商売を始めるかもしれないし。

浅沼委員：この形で村に投げかけていけるか。この場でそこまで消化させるべき。議論だけでいいならもっと詰める必要はある。実際にやる必要はないと思うが理論上構築してこんな価値があってぜひやるべきですという提言をし、飲むか飲まないかくらいまでの肉付けは必要。これでいけるならいいが、いけないなら何が必要か、他の課などに問い始めてもいいかも。それから議論しても。こういう新しい企画を通す時プレゼンテーションとか、行政ではどうやって成り立つのかが分からない。課長会議なのか村長の独断なのか仕組みが分からない。新規事業はどうすれば事業として組み込んでくれるのか。

谷会長：過去に島外の人向けに三七山スポーツ公園とかフィールドアスレチックなどの箱物があったが、今回のように島の人口を増やすための企画を通すにはどうしたらいいか。要望書もあるが。

浅沼委員：要望書もそうだが金もあるので。企画に合う補助を探し、この補助を使えば50%で済むよというセールストークが必要。組織として新規企画はどういう経緯を経れば税金投入までの流れが出てくるのか。

小島委員：村長と議員に言わせるのが一番簡単。

穴原奈都：たしかに村長・議長らに間接的に言うのもあるが、こういう流れができないとスリープレイが立ち上がった意味がない。直接的なルートができることが…この場は投げかける拠点のようなものとして作られたのかなど。

谷会長：御蔵会館はすごく魅力的。個室になっているし。

浅沼委員：御蔵会館とか決めずに具現化した形でもっていき、こういうのは通るのかなというのが私たちからの問いかけである、ということでもいいのでは。私たち発案のこんな施設があれば恐らく人口増につながるかもしれませんという案を行政の中でどう消化できるか。実験的に。上手くいかなければやめてしまえばいい。企画を1本に絞って戦ってみても。こういう企画が通らないと次を考える気にならないし、ただしゃべっていても不毛。行政に聞いて肉付けして修正してとやっていかないとこの存在意義がなくなってしまう。村長決裁だけで通っても面白くないので、ちゃんと下準備として課長らにも巡回しながら案を聞いてみたい。こういう企画がここで上がってきたと総務課が紹介し、他の課長らにも意見を聞いてそのうえで村長に聞くという流れが作れると面白い。一度投げかけて行政はどう対応するのか見てみようと。こういう案が会議から出た場合、行政としてどう消化してくれるのか行政の立ち居地、今後の採用の仕方や方向性を確認したい。

北川係長：報告書を持っていったときに村長から定住促進についてアイデアを求められているので、短期滞在型施設の必要性についてはなんらかの形で村長から進言なり回答はあると思う。定住促進は当然重要だが予算は限られているので、どこの部分が一番の政策かを村長がどう考えるか。

谷会長：年1回の報告ではなく要望書を作る。

小島委員：9月までに1回出す。今度の島コンの中でアンケートをとり、20人中10人はそういう施設に入りたいという意見があったという数字をだす。今からやっておけ

ば来年度のスタートだとしても余裕がある。予算は別として。

谷会長：空白もあっていいので企画書案を作成して次回会議から揉む。

沖山委員：議論した企画書はこうですと 20 ページくらいにまとめて。

北川係長：御蔵会館は三宅高校の島外生徒受入れの件でも検討されている。

谷会長：それはそれで。

小島委員：島コンに関して 1 点。島内男性が東京での懇親会に参加する際、村長も一緒に来られないか。高知県とか知事が東京にきて定住促進のアピール（知事コン）を行うのが今流行っているのです。村長コンとか。

北川委員：議会中なので難しい。

穴原委員：ビデオレターは。

谷会長：東京でもいいが島に来てもらったときの挨拶でもいいのでは。

4. Wi-Fi、その他について

鈴木：Wi-Fi をひく、ひかないの結論はでていない。企画情報係として島の玄関口などにひく予定はあるのでその中で検討させていただきたい。この会議以外で Wi-Fi を使うのかということもあるので、ここに優先して入れるべきなのかということもある。実際に会議で Wi-Fi が必要なのかということももう少し様子を見たい。

北川係長：今日の会議で資料の一部が見られないということもあったので、その辺の問題を整理して、Wi-Fi をひくことでこういう会議が展開するのでここにひきたいと明確にしないと。

小島委員：ここぼーとでいいのでは。ここでやるメリットはない。

北川係長：使用料がかかるが、その予算はとっていない。

穴原委員：とりあえず資料は PDF にして送付。このパソコンでも無線は飛ばせるので 10 台まで接続できる。

小島委員：ここに限らず村内の公共施設には Wi-Fi を入れてほしい。

北川係長：うちの方針としては玄関口の整備から。空港などは都の管轄なので村の一存では。

谷会長：一つ一つお互いに妥協してやっていく。

5. 次回開催について

8月26日（火）14：00～役場臨時庁舎3階会議室